

全ての子どもが明るく楽しい学校生活を送れるようにするために

学校では、全ての子どもが明るく伸び伸びと学校生活を送ることができるよう、日々教育活動に取り組んでいます。

子どもの個性はさまざまであり、どの学校においても支援の必要な子どもはいます。楽しい学校生活を送るために、その子どもに合わせた教育(特別支援教育)を進めています。

市内小中学校では、特別支援学級や「ことばの教室」などの通級指導教室を設け、特別支援教育コーディネーターを中心として、保護者や医療・福祉などの関係機関と手を携えて、どの子どもも自分らしく生き生きと学校生活を送れるようにしています。

さらに、市内の子どもたちが集まって学習する場をつくり、交流を深めながら、人との関わりなどを学べるようにしていきます。

【主な交流活動】

- わくわくスクール(特別支援学級合同学習会)
- 夏休み親子学習会(ことばの教室合同学習会)
- 中学校進路学習会(特別支援学級)

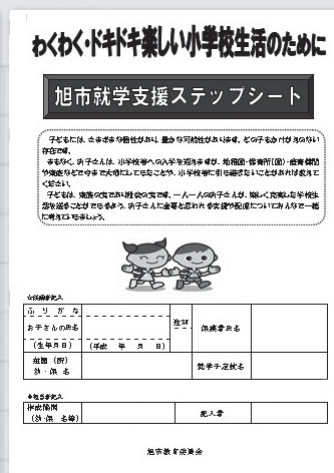
スムーズな就学を目指して

教育委員会では、小学校などへの入学に当たり、就学時健康診断の案内と共に「就学情報パンフ」を配布しています。就学情報パンフでは、入学式までに行われる行事や、就学時健康診断の検査内容とその後の就学相談などを知らせています。

また家庭や保育所・幼稚園などでの子どもの様子を、



就学情報パンフ



旭市就学支援ステップシート

小学校に引き継いでいくための「旭市就学支援ステップシート」を作成しています。各小学校では、就学支援ステップシートに書かれていることを基に、保護者や保育者の思いをつなぎ、子どもの成長の手助けをしていきます。

気軽に相談を

「じっとしているのが苦手」「周りの人とのコミュニケーションが難しい」など、子どもの発達や就学先の心配事がある場合は、家族や一人で悩まず気軽に相談してください。

また就学担当者による就学相談や、専門相談員による巡回相談も行っています。

ステップ相談窓口

ステップダイヤル(学校教育課指導班内・☎55-5726)

教 育 委 員 コ ラ ム



映画の主題歌を聞きながら

教育委員会委員長職務代理者
石井 勝也

寒い日が続いていた2月のある朝、ラジオから「喜びも悲しみも幾歳月」が聞こえてきました。

海の安全を守るため、辺地の灯台で厳しい駐在生活を送る、灯台守夫婦の人生を描いた映画の主題歌。歌手若山彰さんの声量ある力強い歌を久しぶりに聞きながら、同名の映画を思い出しました。2回映画化されているので、見られた方も多いと思います。

最初の映画は1957年の上映で、佐田啓二さんと高峰秀

子さんが主演されていました。二作目は30年後の1986年に上映。加藤剛さんと大原麗子さんが主役で、佐田啓二さんの息子の中井貴一さんも出演していました。

灯台守として日本各地の灯台を転々とする中での、多くの出来事が描かれます。それこそ命懸けで嵐に立ち向かい灯台を守る姿、町から遠く離れた灯台での家族の病気、息子の非行、戦争中の敵機からの攻撃など、本当に体を張っての仕事が描かれています。

ところが、現在は無人化された灯台が多く、映画にあるように命懸けで灯台を守るという場面は、過去の話のようです。

今では、私たちの身の周りも電気製品などに囲まれ、明るく温かい生活になっています。だからこそ今の子どもたちに、ときにはいつもの生活を離れた体験をさせることも大切なのでしょうね。

ただ、しつけや指導がいじめや体罰にならないように十分に気を付けながら。